



チェンナイ

川根本町内の高校生6人が、町内にサテライトオフィスを持つゾーホージャパン株式会社の協力を得て、8月8日から18日までの11日間、インド・チェンナイのZoho Schoolsでグローバル人材育成研修を実施しました。

研修では異文化理解やコミュニケーション能力の向上、現地の学生との交流を通じて国際感覚を養いました。貴重な経験を今後の学びや地域の発展に生かしていきます。



プログラミングを学ぶ



川根高校1年
塚松 南帆

私は自分の見聞を広めたかったことと、急激に成長している国、インドに興味を持ったため、研修に参加させていただいた。

研修中、最も苦労したのは英語でのコミュニケーションである。現地の人は非常に流暢に話すため、英語があまり得意でない私は聞き取るのも難しく、うまく話すこともできなかった。しかし、交流を深めるために、自らお願いしてゆっくり話してもらったり、翻訳アプリを使ったりしながら会話を繰り返した結果、最後の日には少しではあるものの、コミュニケーションが取れるようになった。

研修で学んだのは、言語が違ってても前向きに挑戦することの重要性である。将来、私は歯科衛生士として国外でも活動したいと考えており、今回の経験を生かして、相手の立場を理解して信頼関係を築ける人間になりたい。

この研修では企画や運営、引率の方々にもお世話になりながら、とても貴重な経験ができた。この思い出を忘れず、これからも努力していきたい。改めて、皆様に感謝申し上げます。



川根高校1年
神長 壮太

私がインドICT研修に参加させていただいた理由は、プログラミングに興味があったことと、海外という日本とは違った文化を持つ場所、その国の価値観や文化を学びたいと考えたからです。

インドでの研修ということで、日本語が全く通用せず、英語で話す必要があり、コミュニケーションをとるのが非常に難しかったです。しかし、現地の方たちはとてもフレンドリーで、積極的に私に話しかけてくれました。そのおかげで、ジェスチャーや翻訳アプリを用いてコミュニケーションをとることができました。

研修プログラムは、プログラミングやポスターの作成、プレゼンテーション方法なども学び、大変興味深い内容でした。

この研修で、インドの文化や歴史、またICTについても触れ、様々な貴重な経験をしました。今後の学校生活や探究活動に生かすことのできるスキルを身につけられたことはもちろん、自分の進路を考えるきっかけにもなりました。